

小児の新型コロナウイルス感染症で これまでにわかったこと（国内データより）



潜伏期間：1～14日 平均5.8日

他人に感染させる期間：発症2日前～症状出現後7日程度

小児の感染者数：10歳未満246人(1.6%)、10～19歳352人(2.3%)、重症例は2人のみ(5月8日現在)

症状：小児ではコロナに特徴的な症状はなく、普通感冒と区別が付きません。

疫学：①小児の感染者のほとんどは家族内感染

②大人から小児への感染はあるが、小児から小児、小児から大人への感染報告はない

③学校や保育園におけるクラスターはないか、あっても稀

小児の心身の影響：学校、保育園などの閉鎖や外出自粛が子どもの心身を脅かしています。子どもの抑うつ、児童虐待、子どもの貧困に拍車、予防接種の機会を逃すことなどが問題となっています。小児に関わる人たちは、コロナへの感染対策だけでなく、コロナの流行による子どもの心身への影響にも十分な配慮をする必要があります。

5月の感染症情報

休校や外出自粛により、感染症そのものの発生が非常に少なく、特別な感染症の発生はありませんでした。



～親子で遊ぼう～

～③くすぐり遊び～ 「○○どこかな？」

顔や体のパーツを使ってみましょう。「おへそどこかな？」と言いながら、タッチをしてくすぐります。そして、もう1度「おへそどこかな？」とくすぐるポーズをとり、子どもの「いつ来るかな」という期待感を盛りあげましょう。

言葉をかけながら、楽しく触れあえます。

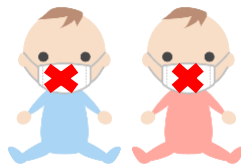
子どもたちも楽しさから自然と声がかますよ。



2歳未満の子どもにマスクは不要、むしろ危険です！

- ・乳児の空気の通り道は狭いので、呼吸がしにくくなります。
- ・マスクをすることで嘔吐物による窒息や熱中症のリスクが高まる可能性があります。
- ・顔色や唇の色、表情の変化など体調異変への気づきが遅れてしまいます。

(日本小児科医会HPより)



5月のご利用状況

5月の利用延べ人数は40名、一日平均利用人数は2.1人でした。年齢別では、1歳児が24人(60%)で最も多く、次いで0歳児の8名(20%)、2歳児の6名(3%)の順でした。疾患としては、通常のかぜウイルスによると思われる急性上気道炎が34人とほとんどを占めていました。政府は、5月25日、新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言を1か月半ぶりに全面解除しました。愛媛県では松山市内の医療機関で集団感染の発生があったことから、行動制限を一部緩和するものの6月1日以降も警戒期を継続するようです。

当施設での病児の受け入れに際しては、医師の診察に加えて、病児のご家族の感染歴や移動歴、保育所や職場での感染状況などについて問診も行い、新型コロナウイルスの紛れ込みがないよう配慮しながらお預かりしております。ご安心下さい。